

第28回障害者の主張大会 最優秀賞作文 平成29年12月7日開催

「差別をしないということ」

小林 俊介

未だに障がい者は、多くの健常者から避けられる存在です。障がい者に対する「偏見」というものが、避けられ続けている原因ではないでしょうか。

想像してみてください。日本の映画やドラマのエキストラに障がい者って出演していますか。近年は少しずつ見かけるようにはなりましたが、まだ多くの作品で障がい者のエキストラは見かけません。障がい者がエキストラで出演することは、障がい者が主役のドラマや映画とは訳が違います。

日本を代表する怪獣映画のゴジラ、ゴジラが街に現れた時、逃げ惑う人々の中に障がい者はいますか。私は見たことがありません。更には、バラエティ番組や報道番組などの街頭インタビューで、障がい者に聞いているところをほとんど見かけたことがありません。

ただ、ファンタジー映画やSF映画などに障がい者が出てこないのは良いのかも知れませんが。その作者が障がい者のいないファンタジーな世界を描きたいのならば・・・ですが。

しかし、リアルな世界を描いている作品のエキストラに障がい者がいないのは、おかしくありませんか。現実には我々障がい者も生きています。生活しています。その我々を無いものとしているのです。

それはやはり偏見や差別があるからではないでしょうか。偏見を持たないで欲しい、差別をしないで欲しいというのは、どんな障がい者も感じていることです。

しかし、差別をしないとはどういうことなのか、これに答えはないと思います。というのも例えば、行列の出来るお店に障がい者が並んでいたとします。すると前に並んでいた健常者の方が順番を譲ってくれました。この時、ありがとうございますと素直に順番を譲ってもらった障がい者もいれば、障がい者だからと言って気を使わないで下さいと、遠慮する障がい者もいます。つまり障がい者といっても、その接し方を差別だと感じる方もいれば、差別なく接してくれて嬉しいと感じる方もいます。

これは健常者も同じことです。同じ接し方をAさんとBさんにした時に、必ずしもお互いが嬉しいと感じることはありませんよね。障がい者も健常者も同じ、感じ方は人それぞれ十人十色です。あなたにとっての「差別をしない」が正解です。

障がい者だろうと健常者だろうと、相手のことをどれだけ思いやり接するか、これが、差別をしないということだと思います。

私はありがたいことに、幼い頃からとても思いやりのある方々に囲まれて生

活をしてきました。 家族、親戚、保育園、小学校中学校、高校の先生方、同級生、友達、その他にも大人になってから関わらせて頂いている方々、私のことを理解してくれていて、本当に思いやりのある方々です。こんな素敵の方々に囲まれた環境で育って来たから、今の自分があります。差別をされたなどと一度も感じたことはありません。

みなさんもこれを機に周りの方、障がい者健常者関係なく、今一度相手の気持ちを考え、思いやりを持って接してみてください。相手に直接どう思っているか聞くのも良いかも知れません。今まで自分の考えだけで行動していたのが、新しい考え方を知ることにより、自分の生きてきた世界が広がるかも知れません。

もちろん、最終的には相手を思いやるということ意識することなく、自然と思いやりを持って接するようになるのが理想だと思います。